

第6学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう
私たちにできること

2 単元の目標

- 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。 (知識及び技能 (1) カ)
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 (思考力、判断力、表現力等 B (1) ア)
- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。 (思考力・判断力・表現力等 B (1) イ)
- 提案する文章を書く活動に、試行錯誤しながら粘り強く取り組み、グループで話し合っよりよいものに行うことができる。 (学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。〈(1)カ〉	① 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。〈B(1)ア〉 ② 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〈B(1)イ〉	① 提案する文章を書く活動に、試行錯誤しながら粘り強く取り組み、グループで話し合っよりよいものにしようとしている。

4 単元について

(1) 主となる言語活動と扱う教材について

本単元では、身の回りにある問題を取り上げ、それに対する解決方法を提案する文章を書く言語活動を行う。5年生では、調べたことを引用して報告文を書いたり、主張と根拠を明確にして意見文を書いたりしている。それらの学習を土台として、根拠となる資料を集め、説得力のある文章を書かせたい。一方で、提案する文章は、児童にとって初めて書く文種である。読み手に対して提案内容を十分に理解・納得させるようにするために、文章の構成に重点を置く。構成を工夫することで、提案の意図や内容が読み手に分かりやすく伝わるようにする。

扱う教材は、身の回りの資源や環境がテーマなので、児童にとって問題を発見しやすい。また、それに対する提案も、児童が無理なく取り組める内容にすれば、実際に提案通り行動することができるだろう。行動に移すことをゴールに設定することで、目的意識をもって提案する文章を書く活動に取り組めると考える。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、小学校学習指導要領「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」の「イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。」を受けて設定している。

この指導事項を受け、児童に身に付けさせたい力は、「自分の考えを読み手に理解・納得してもらえるように、文章全体の構成や展開を考える力」である。読み手に理解・納得してもらうには、自分の考えの根拠を集めることが必要になる。しかし、本単元での重点は、集めた根拠等をどのように配列するかである。そこで、資料集めの際には、ウェブサイトや図書資料を選び、児童に示せるようにする。資料を簡単に集めることができれば、自分の考えをより分かりやすくするために資料を選びなおすことも可能だろう。そうすれば文章全体の構成や展開を考えられることに時間をかけて取り組むことができる。

5 指導計画（全10時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て	評価規準・評価方法
第一次	1	○資源や環境を大切にするために、自分たちにできることを提案する文章を書くという学習の見通しをもつ。 ○学習計画を立てる。	○委員会活動で提案内容を実行できるように担当の先生に提案することを伝え、目的意識を喚起する。 ○既習事項をもとに、書くために必要なことを確認し、学習の進め方の見通しをもてるようにする。	
	2	○提案する文章の特徴を確かめる。 ○身の回りにある問題について考え、グループでテーマを決める。	○見本の構成を分析し、書く文章のイメージをもたせる。 ○学校の様子や環境問題からテーマを探すように促す。	【知識・技能①】 <u>ノート</u> ・提案する文章の特徴をまとめているか確認する。
第二次	3	○提案するための資料を収集する。	○決まったテーマに応じて、資料を集める目的を明確にし、取材方法を検討させる。 ○ウェブサイトや図書資料を提示し、必要な情報にすぐにアクセスできるようにする。	
	4・5	○グループで、具体的な提案内容について話し合う。	○互いに質問を重ね、現状や問題点、解決方法についてのイメージを具体的に共有させる。 ○必要に応じて、さらに資料を収集させる。	【思考・判断・表現①】 <u>ノート</u> ・伝えたいことの根拠になる資料を集めているか確認する。
	6 本時	○グループで提案する文章の構成を考える。	○集めた情報をどう配列すれば分かりやすくなるか、話し合うようにする。	【思考・判断・表現②】 <u>構成メモ</u> ・筋道の通った文章構成になっているかの確認。
	7・8	○分担して下書きを書く。	○題をつけたり、箇条書きにしたりするなど、書き方を工夫させる。	
	9	○グループで下書きを読み合い、内容や書き方をよ	○文章全体として内容が捉えやすいか、説得力があるか、という一	

		りよくするために推敲する。 ○提案する文章を清書する。	読み手としての視点で互いに意見を出し合わせる。 ○ある程度書式をそろえることで、他のグループと交流しやすくする。	
第三 次	指 導 計 画 外	○担当の先生に提案書を見せる。		
	10	○提案書を読み合い、感想を交流してよさを共有する。 ○学習を振り返る。	○提案内容だけでなく、書き方や単元の重点である文章構成のよい点に着目して感想を交流させる。 ○観点を明確にして振り返りを書くようにする。	【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>振り返りの記述</u> ・試行錯誤しながら粘り強く取り組んでいるか確認する。

6 本時の指導

(1) 研究との関連

① 国語部会の研究主題

確かな学力の育成をめざした魅力ある国語科の学習のあり方 ～社会に役立つ国語教育の創造～

② 研究の重点

○「主体的な学び」の実現に向けて

【ギガタブの利活用】

児童の苦手意識を軽減するために、提案する文章を書くのにギガタブを活用する。Google ドキュメントを利用することで、グループでの同時編集も可能であり、一人あたりの文量も少なくなる。書くことに苦手意識をもっている児童が多くいることから、長い文章を一人で書くことを目指すのではなく、一人が書く文章は少ないが、読み手を納得させられるようにグループで書き上げることが重視する。そうすることで、苦手意識をもっている児童の負担感を軽減することができ、目標に向かって主体的に取り組むことができるのではないかと考える。

【委員会活動との連携】

子供自身にとって目的意識や相手意識、実生活との関わりを重視した必要感のある学習になるように工夫することが重要である。そこで、資源や環境を大切にするために委員会活動でできることを考えることを目的とし、提案する相手は担当の先生とする。委員会活動との連携を図ることで、自分たちの提案が委員会活動で実行に移されるなど、国語科の学習が実生活と関わりをもっていることを実感できると考える。ただ、委員会によっては子供たちの提案を時間等の関係で実行することができない場合も考えられる。その場合は、学級の中で実行し、子供達の提案が何らかの形で実践できるようにする。

【子供の必要感に応じた学習計画の立案】

学習の見通しをもって学習に取り組むために、第一次で、子供自身に提案する文章を書くために必要なことを考えるように促し、それをもとに学習計画を立案する。委員会活動での活動を提案するという学習のゴールを示し、それに向かってどんなことを学ぶ必要があるか考えられるようにす

る。自分たちの学習の見通しをもち、途中修正を加えながら取り組むことで、主体的な学習になると考える。

○「対話的な学び」の実現に向けて

【自分の考えに生かせるモデルの提示】

学習の段階に応じてモデルに立ち返り、その時点で必要な内容を学習する。第一次では、提案文のモデルを示し、提案文に必要な内容を読み取り、どんなことを調べたり、考えたりしたらよいか見通しをもつ。第二次では、文章の構成を考える場面、下書きをする場面でそれぞれモデルを示す。構成を考える場面では、内容が抽象的で、順序を入れ替えた構成メモのバッドモデルを示す。そうすることで、内容を具体的にしたり、内容の順序を工夫したりすることによって読み手に理解・納得してもらいやすくなることを実感し、自分たちの構成メモに生かすことができるだろう。下書きをする場面では、第一次で提示したモデルを再度提示する。その上で「提案のきっかけ」「提案」「まとめ」のそれぞれの場面で使っている言葉に着目する。それによって、きっかけや提案を説明したり、まとめたりするときに使う語彙が豊かになると考える。モデルにはない語彙も追加して、「提案するときに使う言葉」を例示し、選んで書くことができるようにする。

【グループを混ぜて意見交換する場の設定】

委員会活動のメンバーでグループを組み、学習に取り組ませる。自分の委員会で取り組めることを考えることで、提案内容が広がりすぎないというメリットが考えられる。また、書くことが苦手な児童にとっては、グループを組むことは大いに助けになるだろう。一方で、視野が狭まり、提案内容が充実しない可能性も考えられる。そこで、各グループで提案内容考えた後に、グループを混ぜて意見交換する場を設定する。自分たちの提案内容について意見をもらったり、他のグループの提案内容を参考にしたりすることで、各グループの提案内容を充実させることができるだろう。

○「深い学び」の実現に向けて

【自分の思いや考えを広げ深める振り返りの視点の設定】

自分の思いや考えを広げたり、深めたりするために三つの振り返りの視点を提示する。一つは、「何を学習したか。」である。その時間に自分がどんなことをしたのか客観的に振り返らせる。二つ目は、「何が分かったか。」だ。学習を通して、新たに知ったこと、気付いたことを振り返らせたい。三つ目は、「何を考えたか。」とする。感想や疑問、自分や友達の取り組み方でよかったところについて振り返り、次の学習や生活に生かせるようにする。以上の視点での振り返りを継続して行い、自分の学びを俯瞰してとらえ、自分の思いや考えを深められるようにする。

(2) 本時の目標

○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。【思考・判断・表現】

(3) 展開 (6/10)

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◇評価
3	1 前時までの学習を振り返る。 ・グループで提案内容を話し合ったな。 ・提案に必要な資料を集めたな。 2 本時のめあてを確認する。	○学習計画や前時の振り返りを確認し、本時の学習の見通しをもてるようにする。
	提案内容が伝わるような文章の構成を考えよう。	
11	3 構成の仕方の例を確認する。 ・「提案のきっかけ」には、きっかけとなった経験、現状や問題点が書かれているな。 ・「提案」は、(1)(2)のように分類して書くとなんか分かりやすくなりそうだな。 ・「まとめ」には、もう一度提案の趣旨を書いてみよう。	○提案内容を伝わりやすくするには、提案と理由が続けて書いていること、内容が具体的であることを伝える。 ○構成メモのグッドモデルとバッドモデルを提示し、比較できるようにする。 ○「提案のきっかけ」「提案」「まとめ」にどんな内容が書かれているか、順序はどうなっているかという観点で比較し、自分たちの構成に生かせるようにする。
21	4 グループで構成について話し合い、構成メモを書く。 ・「題名」は大事だからみんなで考えよう。 ・「きっかけ」にエネルギーについて調べたことを書いたらどうだろう。 ・「提案」は、二つに分類して、分担して書いてみよう。 ・提案することの後に理由を書くと分かりやすくなりそうだね。 ・「まとめ」は何を書くか、見本で確認してくるよ。	○前時にまとめた資料や提案などの内容を簡潔に書くようにする。 ○Google Jamboard を用いて、グループで構成メモを同時に編集できるようにする。 ○構成メモは「題名」「提案のきっかけ」「提案」「まとめ」の項目を書いたものを配付し、それぞれの項目の内容が具体的か、順序が適切かについて話し合うことに重点を置くようにする。 ○話し合いが進まないグループには、「提案」から考えるように促し、その後「きっかけ」や「まとめ」を書くようにする。 ◇筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。【構成メモの記述】
10	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・今日は提案文の構成について学習しました。 ・提案することの次にその理由を書くと読み手に伝わりやすいことが分かりました。 ・今日の構成メモをもとに次回は下書きを書けそうです。	○「何を学習したか」「何が分かったか」「何を考えたか」の観点で振り返りを書くように促す。 ○学習計画を確認し、次回は下書きをすることを伝える。

(4) 評価基準

A	「提案のきっかけ」「提案」「まとめ」に必要な内容を具体的に、かつ提案が明確に伝わるような順序で書いている。
B	モデル文を参考に「提案のきっかけ」「提案」「まとめ」に必要な内容を具体的に書いている。
C	Bを満たしていない。

(5) 板書計画

六月二十日（火）
私たちにできること

提案内容が伝わるような文章の構成を考えよう。

- ・ 提案と理由がセット
- ・ 内容が具体的（いつ、どこで、だれが、何を、どのように）

○ 構成メモの例